

デジタル活用・DX 推進枠の想定事例

- ・建設現場においてロボット工学を用いた作業の遠隔化や自動運転を導入し建設業界が直面していく課題を解決する。
- ・人が立ち入り実施することが困難な建設設備の定期保守点検をドローンの自動運転と特殊センサーで行う。
- ・牛群管理ができるアプリを通じて牛個体の行動データから牛の状態の見える化や異常検知をするセンサーにより効率的で生産性の高い牧場経営を実施する。
- ・ICT、IoT、AI 技術を使って養豚を改善する。各種センサーを活用し養豚生産にまつわる全てのデータ化、可視化によって生産管理と環境負荷軽減を実現する。
- ・養殖漁業現場の労働負荷の低減と自動化。さらには AI を活用した、魚の食欲判定による餌やりの最適化や魚体サイズの自動計測などを行う。
- ・ロボット、AI、IoT 等の情報通信技術を活用した「スマート農業技術」により、農作業の効率化、農作業における身体の負担の軽減、農業の経営管理の合理化による農業の生産性の向上をはかる。
- ・介護現場で装着型サイボーグを活用し、介護者を腰痛から守り持続的な介護サービスの提供を行う。
- ・治療アプリを導入して、これまで医療従事者が関わることの難しかった診察外の時間帯における新たな治療介入を実現する。個別化されたフォローがアプリを介して実施され、認知や行動の変容を通じて、治療効果を創出する。
- ・非接触型センサーによって、睡眠の深さ、心拍相当数、呼吸相当数、離床・入床などを取得する介護事業。睡眠見守りシステムを活用し、介護者の負担を減らすスマート介護事業。
- ・ベテランの経験と勘に頼り、属人化していた加工条件を AI で計算して、機械の状態や稼働率を管理しながら精度の高い持続的な生産活動を行う。

- ・味覚センサーと3dフードプリンターを使い個人の嗜好に合わせたオーダーメイド介護食を提供する。
- ・席案内から調理、配膳、下膳、巡回サービスまでロボットが一貫して行なう飲食店
- ・AIカメラにより人流・年齢・性別を認識し、最適な広告を表示するデジタルサイネージを活用した広告事業
- ・AIを活用した高鮮度急速冷凍技術を使用して寿司名店の冷凍にぎり寿司を全国で販売。

※デジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革し、新たな価値を生み出す事業が対象となります。業務効率化のためのデジタル活用は対象となりません。